

鳥取県の沿岸には潟湖型の湖沼が点在しているが、この中で、湖山池および東郷湖はスケールの大きなものであって、両湖あわせて年間500屯の漁獲があり、県下内水面漁業にとって重要な漁場となっている。

近年、周辺地域の開発が進むにつれて、両湖沼では湖水の汚濁による漁場の荒廃が懸念されていたが、たまたま45年度に実施した主要漁場公害総点検事業により、漁場の汚れが最近、目だって進行している事実が明らかとなった。したがって漁場環境を維持するためには汚濁の要因を究明することが当面の急務であると考えられる。このため46年度に水産庁の委託を受けて、本調査を実施することとした。今後はさらに調査結果に基づいて早急に汚濁防止対策を策定し、漁場の保全に努めたい。

調査の実施に当って鳥取大学教育学部恩藤教授には浮遊生物と底生生物の査定をお願いし、汚濁指標生物についてご教示いただいた。

ここに厚くお礼申しあげる。

なお、この調査は鳥取県衛生研究所ならびに鳥取大学教育学部による昭和46年度湖山池、東郷湖汚濁要因調査と協力して実施したことを附記しておく。